

- ・調査対象 同社契約者
- ・調査方法 インターネット調査
- ・回答者数 12,634人
- ・調査時期 2022年10月1日～10月13日

“飲みニケーション”は必要 45.6%

最近、会社の同僚や部下と飲みに行くことがめっきり減った、と感じている人も多いのではないかな。

今回は、“飲みニケーション＝お酒を飲みながら語り合い、親交を深めること”という定義のもと、日本生命が実施したアンケート結果から、“飲みニケーション”の実態についてみてみたい。

“飲みニケーション”があった 14.3%

「今年度、職場の方との“飲みニケーション”はありましたか」との問いに対し、「頻繁にあった」「多少あった」と回答した人は14.3%、「あまりなかった」「なかった」の合計は85.7%となった。

いわゆる〈Withコロナ〉による行動制限の緩和などにより、コロナ禍以前の日常が戻りつつあるが、職場における“飲みニケーション”は解禁されたとはいえないようだ。

“飲みニケーション”は不要 54.4%

“飲みニケーション”の必要性については、「不要」「どちらかといえば不要」が54.4%、「必要」「どちらかといえば必要」は45.6%だった。

年代別にみると、20代で「不要」派の割合がやや多いものの、

各年代とも、「不要」派が5割台、「必要」派が4割台となっており、年代による大きな違いはみられない。昨今、“飲みニケーション”そのものを敬遠する傾向があるという割には、「必要」と回答した人が意外に多いという印象だ。

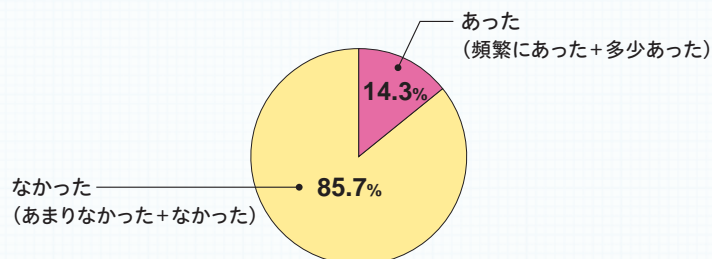
デジタル化を背景に時間と場所を選ばない働き方が浸透しつつあるが、メールやチャット、画面越

しのコミュニケーションでは不十分、物足りないと考えている人が、年代を問わず少なからず存在するという事だろう。

今後、“飲みニケーション”の必要性を含め、就業環境の変化に伴う職場内コミュニケーションのあり方が問われそうだ。

(インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊) ●

“飲みニケーション”の有無 (n=9,438)



“飲みニケーション”の必要性 (n=9,553)

